

なお、上記の栄養状態で栽培した場合の果実は、果皮の譜形質にうまさが見られているものの、収穫期またはそれ以降、虎斑症が出ることもあるので、普通温州においても必ず年内出荷とすべきである。

4. 地力に応じた施肥法

果実の生育期の栄養補給は、できる限り地力依存型が望ましい。しかし、夏季に干ばつを受けるような浅耕土園や、養分吸収能力の低い幼木、湿害園等は夏肥の施用が必要である。

逆に耕土が50cm以上で、耕土中全N量が500kg以上も含む園地においては、春肥の施用量は削減できる。

このことから、高品質みかんづくりのためには、積極的な土づくり、すなわち、深耕、客土、排水等の諸対策と、有機物の施用による保水力ならびに地力Nの増加を図り、地力依存栽培型への転換が重要である。

5. 安定生産のための秋肥の重要性

みかんに限らず、かんきつ類を連年結果さすための栄養管理の基本は、初秋肥と秋肥を効かすことである。

ただここで、9月に施肥すると、果実の着色や味に影響の出る恐れのあるみかんについては、何時頃まで遅らせばその影響が解消できるかの問題である。

翌春の着花、新梢の発生に対する秋肥の効果は、別表に示す通り、施用時期が早いほどよい。

栄養状態を改善し、N濃度を適正化することにより、着色と糖含量の増加を早められ、ひいては秋肥施用期を早く、またその効果も高くすることができるので、可能な限り早く施す。

施用量は、極端にN過剰とならない程度でのN濃度の

秋肥のちっ素施用時期と

みかんの翌年の着花数、生長量

	着花数	新葉数	伸長量	旧葉数	葉緑素 (12月15日)
9月中旬施用	349個	147枚	131cm	191枚	28.1mg/cm ²
10月中旬施用	341	114	112	163	19.5
11月中旬施用	220	121	99	116	10.0
無施用	162	72	58	111	9.8

(和歌山果樹試)

復元をねらいとして施用する。従来年3回施用のときと較べて、秋肥重点施用に転換した方が、春肥によるN過剰供給を避けられるので良策と考えられる。

6. おわりに

品質時代を迎えて、みかんの施肥も産地間、出荷時期等により色々であろうが、品質向上のための施肥の基本について概説した。N以外の成分の問題も多々あるが、紙面の都合で省略した。

これからのみかんの栄養管理は、Nをどれだけ施すかではなく、どんな品質のみかんをつくるかを前提として、生育期間中の樹の栄養状態を、どの程度に維持するかが重要であり、現在の栄養状態と地力からの供給量を勘案したうえでの施肥でなければならない。

最後に、樹は常に栄養状態を現わしている。葉の色に限らず、その形や症状を始めとして、果実の着色の早晩果皮の滑らかさ、厚さ、浮皮程度等、また枝の伸び、幹の色、樹の拡がり、根の伸び具合等あらゆる部位に栽培の環境と管理方法の適、不適を訴えている。

この樹の言葉を解して、栽培改善に努めることが、優品安定生産への道であろう。

世界 の 飼 料 穀 物 需 給

		1974/75	1975/76 (暫定)	1976/77 (予測)			1974/75	1975/76 (暫定)	1976/77 (予測)	
生産	アメリカ	150.5	184.1	199.5	輸入	西ヨーロッパ (除EC域内)	26.3	26.6	24.2	
	カナダ	17.4	19.9	19.6		日本	13.1	13.3	13.7	
	オーストラリア	4.4	5.9	5.3		日ソ連	2.7	14.3	6.5	
	アルゼンチン	13.8	12.0	14.9		東ヨーロッパ	6.3	6.6	6.0	
	南アフリカ	9.8	8.5	9.7		その他	14.4	12.0	13.2	
	タイ	2.7	3.3	3.6		計	62.8	72.8	63.6	
	ソ連	99.7	65.6	98.0		消費	アメリカ	121.2	134.6	148.1
	西ヨーロッパ	86.8	83.2	86.8			ソ連	103.4	83.1	98.0
	東ヨーロッパ	56.8	57.0	57.3			中東	65.6	66.8	66.2
	その他	184.1	196.8	197.0			計	342.6	355.0	356.9
計	628.0	638.3	693.7	期末在庫計	47.3		46.1	70.6		
輸出	アメリカ	34.2	45.2	37.7	資料: USDA "Foreign Agriculture Circular. April 29, 1976"					
	カナダ	2.6	4.2	3.4	注: 飼料穀物はとうもろこし、大豆、えん麦、グリーンソルガム、ライ麦の計。ただし、輸出入にはライ麦を含まない。					
	オーストラリア	2.9	3.1	3.0						
	アルゼンチン	8.5	5.5	4.7						
	南アフリカ	3.5	3.4	2.8						
	タイ	2.2	2.6	2.8						
	西ヨーロッパ (除EC域内)	4.1	2.9	2.7						
	その他	4.8	5.9	6.5						
	計	62.8	72.8	63.6						